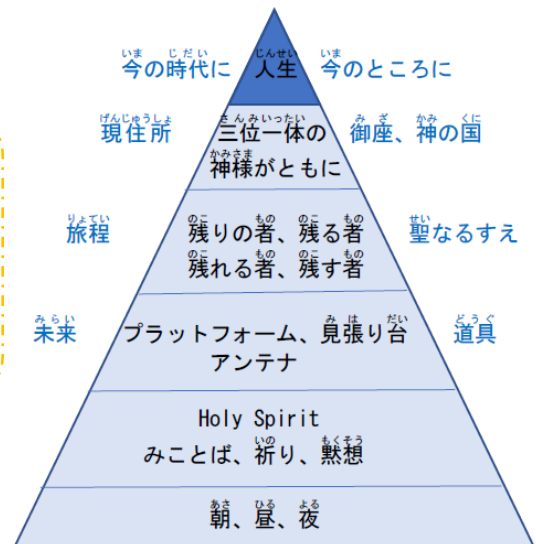


三位一体の神様がともにおられ、私たちを通して契約の旅程をともに歩んでくださり、未来を生かす道具として用いてくださっているということです。私自身がなにかができるのではなく、神様がすべてを備えてくださっていること、それが9月の学院福音化のメッセージの核心の内容です。



3課 日常の中で起こる時代の教訓 (マタイ 17:20)

フォーラムの内容：からし種ほどの信仰

マタイ 17:20

イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に、『ここからあそこに移れ』と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。

このみことばは、私たちが信仰をもって祈れば必ず答えられるという意味で理解してはいけません。そのみことばのままであれば、イエス様が復活されて今まで、2000年の歴史が流れている間、ここにあった山が別のところに移されたという記録やニュースがあるはずですが、一度も聞くことはありませんでした。なぜでしょうか。それは「からし種ほどの信仰を持った人」がひとりもいなかったのか、聖書のみことばが偽りだったということでしょう。

まず、ここで「信仰が薄いからです」ということばの原語的な意味を見てみましょう。それは2つあります。

1つ目：書いてあるとおり、信仰が小さい、薄いという意味

2つ目：信仰がない

という意味です。

マタイ 17章 全体の流れを見ると、ここでは「信仰がない」という意味で解釈できます。

マタイ 17:17 を見ましょう。

マタイ 17:17

イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰な、曲がった今の世だ。いつまであなたがたといっしょにいななければならないのでしょうか。いつまであなたがたにがまんしていなければならないのでしょうか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」

ここで「不信仰な、曲がった今の世だ」とイエス様が言われました。

この流れで見ると、20節の「信仰が薄いからです」と言われているのは、「信仰がない」ということを言われているのです。

信仰が薄い＝不信仰、信仰がない

3課で私たちがフォーラムする内容は、「からし種ほどの信仰」です。

ここで「からし種ほどの信仰」の意味を見てみましょう。



まず「信仰」とはなにでしょうか。

信仰の主体は私たちではなく、イエス様です。



ヘブル 12:2 に「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」とされているように、イエス様が信仰の創始者であり、完成者です。それゆえ、信仰は私たちの中から始まるのではなく、イエス・キリストによって上から与えられるのです。

信仰自体がイエス様です。

そこで「からし種」を理解するために、マタイ 13:31-32 を見ましょう。イエス様が天の御国のたとえとして話された中で言われたことです。

マタイ 13:31-32

31 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、からし種のようなものです。それを取って、畑に蒔くと、

32 どんな種よりも小さいのですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります。」

このみことばも同じように、

「私たちの信仰が、たとえからし種のように小さいものであっても、丁寧に育てて大きくなるようにすべきだ」というのではなく、

天の御国はからし種のようなものですというみことばは、

「この世の人々から見て、みすばらしく、見えないほど小さいイエス様という種が撒かれれば、必ず、空の鳥が来て巣を作るほどの大きな木になります」という意味です。

私たちが自分で、撒かれた種の信仰を大きくしようとしてできるのではなく、種であるイエス様が撒かれれば、どんな地でも、その種は成長して、大きくなりますということです。

私たちがなにかをしてできるのではなくて、イエス様が私たちの中で、信仰を堅くしてくださる、大きくしてくださるということです。



今日の本文の信仰が薄いというのは、あなたがたの中には「わたし（イエス様）がいない」ということです。このことばを語られたとき、まだ、イエス様の十字架と復活の時は来ていません。人々の上に、まだ約束の聖霊は臨んでいません。それゆえ、天の神様からの教え、神様からの悟りがなければ、だれひとり、弟子たちさえも、自らイエスがキリストであることを信じ、告白することはできないということを、17章で、おしの霊につかれた息子の事件を通して、イエス様がもういちど、教えてくださっているのです。

そして、きょうの本文の「この山に、『ここからあそこに移れ』と言えば移るのです」というのは、どういう意味なのかを見てみましょう。



簡単に言うと、からし種のような、イエス・キリストの十字架によって、旧約の律法の山は崩され、恵みによる新しい山が建てられることを言っているのです。言い換えれば、救いは人間の能力と行い、律法を守ることによって得られるのではなく、神様の恵みによってイエス・キリストを信じる信仰を通して得られるということです。

もう少し、よく分かるように、旧約聖書を見ましょう。

ミカ 4:1-2

1 終わりの日に、主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、国々の民はそこに流れて来る。

2 多くの異邦の民が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。

「この山に、『ここからあそこに移れ』」というのは、人間的、律法的な旧約の山は崩されて、イエス・キリストの十字架による新しい山、エルサレムが建つということです。人間主義的、律法主義的な旧約の山は、崩されなければならない、イエス様が建てられた十字架による新しい山の上に、私たちは立たなければならないということです。それは、イエス・キリストの十字架の恵みによって移されるということです。

この内容を深く黙想してみましょう。

きょう見た聖書の箇所を、ひとりひとり、自分の目で見て読みましょう。全体を見て、第3課のマタイ17章を見るようにしましょう。

結論

いま私たちは、イエス・キリストの十字架を通してすべてが成し遂げられた恵みの時代に生きています。約束の聖霊様が、信じる者の中に臨まれ、24時ともにおられます。そのような時代の私たちに要求されているのは、ただイエス・キリストを正しく信じて告白する、信仰告白が必要だということです。私たちがなにか、イエス様のために、神様のために、神の国のために、いっしょうけんめいにしなければならないと、思わないようにしましょう。イエス様が私たちに願っておられるのは、ただ「正しい信仰告白をすること」です。正しい信仰告白を整理します。

正しい信仰告白＝イエスはキリスト

- 一創造前の契約、永遠の約束の主人公は、ただ「イエス・キリスト」であること
- 一そのキリストは、ことが人となってこの世に來られた「イエス・キリスト」であること
- 一そのキリストは肉をもって來られ、聖書の示すとおりに十字架で死なれ、三日目によみがえられたということ
- 一そのイエス・キリストは、再臨の主として再び來られると約束してくださったこと。

私たちは、そのイエス・キリストを待ち望み、再び來られると、新しい天と新しい地、新しいエルサレムに私たちを入れてくださるという希望を持って、正しい告白をして、毎日歩みましょう。

